

【実践1】 評論教材における「読解力」育成のための指導
対比的表現に注目し、筆者の主張を読み取るための方法
 - 「水の東西」を中心に -

1 実践単元の位置付け

学習指導要領「国語」の「国語総合」における「読むこと」の指導事項は、次の4項目から成っている。

- ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約したりすること。
- イ 文章を読んで，構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 様々な文章を読んで，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりすること。

この中のイに「構成を確かめたり」とあるが、「構成」とは文章の組立てのことである。筆者が自らの主張を効果的に伝えるために、どのように論を組み立てているのかを読み取ることは、思考力を伸ばすばかりでなく、文章を書く場合にも大いに役立つものとなる。

また、「平成14年度 高等学校教育課程実施状況調査報告書」の「国語」編では、「読むこと」について、次のような指導上の改善を提言している。

何が書いてあるのかという読みにとどまらず、どのように書いてあるのか、なぜこのように書いているのかなどという表現の仕方にも着目する指導を行うことが求められる。

以上の事柄を踏まえ、評論文でよく用いられる対比の手法を知り、筆者の主張を読み取るための単元内容を、「水の東西」を中心に計画した。

2 実践単元における指導と評価の計画（7時間配当）

時間	学 習 内 容	具体的な評価規準	評 価 方 法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文の特徴や、読解の進め方について学習する。 ・全文を音読する。 ・事前に教科書を通読し、課題としてノートにまとめた感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく読んでいる。 ・意欲的に本文を読み、感想や疑問点をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の様子を観察する。 ・ノートに書かれた記述を点検する。
2	(第1段落・第2段落の読解) <ul style="list-style-type: none"> ・「鹿おどし」の特徴を知り、筆者がどのようにとらえているかを理解する。 ・「噴水」の特徴やイメージを明らかにし、西洋の人々に好まれていたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「鹿おどし」に対する筆者の考えを読み取っている。 ・「噴水」の印象や特徴を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を観察し、ノートに書かれた記述を点検する。
3	(第3段落・第4段落の読解) <ul style="list-style-type: none"> ・日本に噴水が少ない理由を明らかにする。 ・日本人と西洋人の感性の違いを考える。 ・「鹿おどし」が「日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛け」である理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外面的な事情と内面的な事情を読み取っている。 ・「鹿おどし」の特徴と日本人の感性について要点を押さえてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を観察し、ノートの記述を点検する。 ・発表の様子を観察し、ノートの記述を点検する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「水の東西」における対比の構造を整理する。 ・「水の東西」における筆者の主張を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードに集約された「鹿おどし」と「噴水」の特徴を読み取っている。 ・筆者の主張を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の様子を観察し、プリントの記述を点検する。

5	<ul style="list-style-type: none"> 模範解答例を見て、「水の東西」の対比の構造と筆者の主張を理解する。 「スウェーデンの挑戦」, 「丸亀日記」における対比の構造を整理する。 「スウェーデンの挑戦」, 「丸亀日記」における筆者の主張を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 対比を読み取り, 整理している。 筆者の主張を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の様子を観察し, プリントの記述を点検する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 模範解答例を見て、「スウェーデンの挑戦」, 「丸亀日記」の対比の構造と筆者の主張を理解する。 対比を軸にした文章構成で、「私の比較文化論」を作成するための準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「私の比較文化論」を書くためにふさわしい題材を探し, 特徴を分析している。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の様子を観察し, プリントの記述を点検する。
7	<ul style="list-style-type: none"> 「私の比較文化論～ の東西」を作成する。 アンケートを用いて, これまでの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 対比を用いて, 自分の考えを効果的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の様子を観察し, プリントの記述を点検する。

3 実践単位における指導と評価の実際

(1) 第1時

最初に, 評論文の特徴と読解の注意点を説明し, この教材では, 筆者が自分の主張を効果的に伝えるため, 対比の手法が用いられ, 身近な具体例が挙げられていることを告げた。次に数名に指名音読をさせ, その後, 予習で課しておいた初読の感想を発表させた。授業後にノートを回収して点検した。

(2) 第2時

第1段落, 第2段落の読解を行った。まず「鹿おどし」の特徴を知り, 筆者がどのようにとらえているかを読み取らせた。次に「噴水」の特徴や印象を読み取り, 西洋人に好まれていたことを理解させた。授業中の発問に対する答えを観察し, 授業後にノートを回収して点検した。

(3) 第3時

第3段落, 第4段落の読解を行った。まず日本に「噴水」が少ない理由を外面的な事情と内面的な事情に整理して考えさせた。次に, 日本人の感性の特徴を明らかにさせた。そして, 「鹿おどし」が日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けであると言える理由を考えさせ, 理解させた。授業中の発問に対する答えを観察し, 授業後にノートを回収して点検した。

(4) 第4時

読解プリント 資料1 を用いて, 対比を整理して筆者の主張を考えるという作業を行った。各自で内容をまとめ, 筆者の主張についても記入させた。キーワードに該当する「鹿おどし」や「噴水」の特徴を描写した部分を探し, 抜き書きすることや, 必要な部分は自分で説明を加えるように指示を与えた。構造化してまとめる作業は初めてであり, 授業中にもこのキーワードの詳細な内容までは確認していなかったため, なかなか進まない生徒もいた。授業後にプリントを回収し, 評価した。

【評価】

対比……「流れる水と噴き上げる水」, 「時間的な水と空間的な水」, 「見えない水と目に見える水」というキーワードについて, 一つの項目で「鹿おどし」と「噴水」の両方について書けていれば1点とした。二つの項目について書けていれば2点, 全部書けていれば3点満点とした。

主張……おおむね満足を2点とし, 満足すべき解答は3点, 満たない場合は1点とした。

資料1：「水の東西」読解プリント

「水の東西」読解プリント	
組 番 氏名	
<p>「水の東西」の具体例である「鹿おとし」と「噴水」について、三つの対比的な表現を手掛かりに整理しよう。それぞれの内容を説明した箇所を本文中から抜き出し、足りないところは自分の言葉で説明しよう。</p>	
「鹿おとし」	「噴水」
「流れる水」	「噴き上げる水」
「時間的な水」	「空間的な水」
「見えない水」	「目に見える水」
<p>筆者の主張は・・・</p>	

(5) 第5時

まず最初に、前時に作業したプリントの中から、模範解答例として、数名のプリントを印刷して示した。その際に、対比のまとめのポイントを解説し、筆者の主張についても西洋の噴水との対比を用いて、日本人の水の鑑賞の仕方や独特の感性について伝えたいのだということを確認させた。生徒は上手にまとめられた級友のプリントに賞賛の声を揚げたり、自分の記述と似ている点を指摘したりしていた。次回は自分のものが採用されるようにと奮起する生徒もいた。

次に、似たような対比の構造のある文章として「スウェーデンの挑戦」と「丸亀日記」を配付し、前回同様に読解プリント 資料2 を用いて、対比の構造を整理し、筆者の主張をまとめる作業をさせた。（【脚注】参照）対比をまとめることは二度目になるので、取り掛かりはスムーズであった。「スウェーデンの挑戦」の方は、ほとんどの生徒が完成させたが、二つめの「丸亀日記」まで完成させた生徒はクラスで10名程であった。授業後にプリントを回収し、評価した。

資料2：「スウェーデンの挑戦」、 「丸亀日記」読解プリント

<p>「丸亀日記」読解プリント</p> <p>組 番 氏名</p> <p>文章中の対比の構造を整理し、筆者の主張を考えよう。</p>	<p>「スウェーデンの挑戦」読解プリント</p> <p>組 番 氏名</p> <p>文章中の対比の構造を整理し、筆者の主張を考えよう。</p>
筆者の主張は・・・	筆者の主張は・・・

【評価】

対比……一つの項目で双方の国について書けていれば1点とし、4項目書けていれば満点の4点とした。

主張……おおむね満足を2点とし、満足すべき解答は3点、満たない場合は1点とした。

(6) 第6時

また最初に、前時に作業したプリントの中から、模範解答例として、数名のプリントを印刷して示した。それぞれの対比のポイントや、筆者の主張についても説明を加え、確認させた。

次に「私の比較文化論」を書くことを告げ、プリント 資料3 を用いて、準備に取り掛からせた。スポーツや音楽、食事や住まいなど、身近な事物から東洋と西洋の違いをうかがい知ることができることを示し、自分がどのような題材を選び、どのような軸で対比させるかを考えさせた。書きやすい構成の型や推敲についても説明を加え、生徒の取組の状況を机間指導によって観察した。プリントを完成した生徒については点検し、できなかった生徒は次時までの課題とした。

資料3：私の比較文化論「 の東西」プリント

私の比較文化論「 の東西」
～ 山崎正和「水の東西」をモデルとして

論 題

東洋と西洋の間で文化的な差異が感じられる事例を1つ挙げ、比較検討して論じなさい。ただし800字以内とします。

- 註 (1) 東洋とは、ここでは主としてアジアの漢字文化圏および仏教文化の影響下にある地域の文化を指すものとする。
- (2) 西洋とは、ここでは主としてヨーロッパおよびアメリカ大陸の印欧語系の人々の文化を指すものとする。
- (3) 言語・思想・宗教・芸術・気候風土・衣食住など、人間の生活全体を対象として具体的な事物をとりあげ、東洋と西洋の違いを対比・対照する。

準 備

とりあげる事例は？ _____

「水の東西」の場合
水の鑑賞のしかた

東洋と西洋を対比する軸は？ _____
(1つ以上)

形（流れる - 吹き上げる）
認識の枠組み（時間 - 空間）
可視性（見えない - 見える）

対比の軸に従い、それぞれの特徴を分析して書き出す。（箇条書きで可）

東洋の場合 _____

西洋の場合 _____

構成を考える。(3～4段構成)

次の構成の例1・2を参考にしてもよい。

	構成の例1	字数	構成の例2	字数
第1段	東洋の事例分析	約300	対比の要約(結論)	約100
第2段	西洋の事例分析	約300	東洋の事例分析	約300
第3段	対比のまとめ(結論)	約200	西洋の事例分析	約300
第4段	- - - - -	- -	まとめ(結論の確認)	約100

書 く

段落ごとに草稿を書いていく。

更紙の原稿用紙に、とりあえず字数や細かなことはあまり気にせず書いてみるのがよい。

推 敲

文章を整える。

内容の重複を削る。

文と文のつながり具合をチェックし、論理の流れを明確にすべき所には接続詞を用いる。

対 比 …… いっぽう(一方), 他方
転換(逆接)… しかし, だが, ところが
解 説 …… つまり, 要するに, 換言すれば

字数を調整する。

- ・800字に満たない場合 …… 具体的な説明を加えることで増やす。
- ・800字を超えている場合 …… 思い切って削れる部分はないか探す。
同じこと言うにも短く書き換える。

仕 上 げ

読み直し, さらに微調整をする。

清書は上質紙の原稿用紙に書く。

題名は「 の東西」とつける。

1 年 [] 組 [] 番 []

(7) 第7時

第6時で考えた構想を基に、「私の比較文化論～ の東西」を作成させた。時間内に完成した生徒は提出させ、アンケート 資料4 を用いて、これまでの学習を振り返らせた。完成できなかった生徒は、課題とし、後日アンケートとともに作品を提出させた。

資料4：授業後アンケート

「対比の構造を読む」授業後アンケート		組	番	氏名
1 「水の東西」について				
(1) 対比の構造を読み取ることができましたか。	ア できた	イ だいたいできた	ウ あまりできなかった	エ できなかった
(2) 筆者の主張を読み取ることができましたか。	ア できた	イ だいたいできた	ウ あまりできなかった	エ できなかった
2 「スウェーデンの挑戦」について				
(1) 対比の構造を読み取ることができましたか。	ア できた	イ だいたいできた	ウ あまりできなかった	エ できなかった
(2) 筆者の主張を読み取ることができましたか。	ア できた	イ だいたいできた	ウ あまりできなかった	エ できなかった
3 「丸亀日記」について				
(1) 対比の構造を読み取ることができましたか。	ア できた	イ だいたいできた	ウ あまりできなかった	エ できなかった
(2) 筆者の主張を読み取ることができましたか。	ア できた	イ だいたいできた	ウ あまりできなかった	エ できなかった

4 対比の構造を整理することは、筆者の主張を考える上で、効果的だと思いましたか。
 ア 思う イ やや思う ウ あまり思わない エ 思わない
 なぜそのように感じましたか。

5 「水の東西」で対比の構造を整理したことは、その後の「スウェーデンの挑戦」や「丸亀日記」などの文章を読む上で、何か効果があったと思いますか。
 ア 思う イ やや思う ウ あまり思わない エ 思わない
 なぜそのように感じましたか。

6 対比の構造を整理した授業についての感想や、新しい発見、今後の課題などを書いてください。

7 「私の比較文化論」について
 (1) 今回効果的な対比を考えて書くことができましたか。
 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった
 (2) 文章を書く上で、苦労したのはどのようなことでしたか。
 (3) 文章を書く上で、逆にあまり手間取らず、容易だったのはどのようなことですか。
 (4) この課題を書き終えての感想や、気づき、今後の課題などについて書いてください。

4 実践の成果と課題

(1) 実践の成果

表 1：授業後アンケートの結果 1

	できた	だいたい できた	あまりでき なかった	できなか った
1 (1) 「水の東西」：対比の読み取り	14%	67%	18%	1%
1 (2) 「水の東西」：主張の読み取り	7%	63%	26%	4%
2 (1) 「スウェーデンの挑戦」：対比の読み取り	21%	58%	17%	4%
2 (2) 「スウェーデンの挑戦」：主張の読み取り	14%	45%	37%	4%
3 (1) 「丸亀日記」：対比の読み取り	8%	30%	29%	33%
3 (2) 「丸亀日記」：主張の読み取り	5%	15%	41%	39%

表 2：授業後アンケートの結果 2

	思う	やや思う	あまり思 わない	思わない
4 対比構造の整理は筆者の主張を考える上で効果的か。	38%	57%	4%	1%
5 「水の東西」での学習は他の文章の読解に効果があったか。	25%	54%	17%	4%

表3：評価得点の平均

	水の東西	スウェーデンの挑戦
対比の読み取り / 4点	2.51点	2.24点
主張の読み取り / 3点	1.45点	1.37点

採点の時には、対比の読み取りについて、「水の東西」は3点満点、「スウェーデンの挑戦」は4点満点で行ったが、比較しやすくするために4点満点に換算した。また、「丸亀日記」は解答できた生徒が約25%だったので、資料からは除外した。

表4：対比の読み取りと主張の読み取りの相関係数 (>0.4：相関がある。>0.7：強い相関がある。)

	水の東西	スウェーデンの挑戦
生徒の授業後アンケート	0.623	0.709
教師の評価得点	0.512	0.559

生徒の授業後アンケートの質問1「『水の東西』について」における「(1)対比の読み取り」と「(2)主張の読み取り」との間に相関関係があるかどうか、また、質問2「『スウェーデンの挑戦』について」も同様に、「(1)対比の読み取り」と「(2)主張の読み取り」との間に相関関係があるかどうかを調べてみた。そして、それぞれの教材について、教師が評価した対比と主張の読み取りの得点についても相関があるか調べた。ここでも、「丸亀日記」は資料から除外した。

ア 対比の読み取りと主張の読み取りの関連について

表4より、生徒のアンケート結果と教師の評価得点の双方から、対比の構造を整理することと、筆者の主張を読み取ることとの間には、相関関係があることが明らかになった。特に生徒の意識の中では強い関連を感じているようだ。対比の構造が理解できれば、筆者の主張も読み取ることができることにつながるのである。

表2より、対比の構造を整理することが、筆者の主張を考える上で効果的だったと「思う」、
「やや思う」と答えた生徒は95%であった。生徒は強くその有効性を実感したようであった。なぜそのような感じたかという理由については、整理することで文章全体を見通して考えられることや、対象の違いが明確になること、筆者の対象に対する考え方や評価がはっきりしてくることについての意見が多くあった。

イ 類似した構造の文章を重ねて読解することの有効性について

表3において、対比の読み取り、筆者の主張の読み取りのどちらも、「水の東西」、「スウェーデンの挑戦」の双方についてほとんど差はみられなかった。しかし、既習の文章と初めて目にする文章という違いや、内容の違いもあるので、一概に点数だけでは比較できないところがある。

一方、表2の授業後アンケートの質問5「『水の東西』での学習は他の文章の読解に効果があったか」においては、効果があったと「思う」、「やや思う」という生徒は約80%であった。話の内容は変わっても、同じような構造の文章を続けて読んでいくことで、その読みの手法は応用でき、効果的であると感じたようだ。なぜそのような感じたかという理由については、一度やったことでコツをつかんだというものや、模範解答例が示されて参考にすることができたというような意見が多かった。

ウ 対比の構造をまとめ、主張を考えたことに対する生徒の感想

今回の実践についての感想においては、受け身になりがちな授業と違って、各自が主体的に文章を読んでいかななくてはならないものであったので、そのことに触れたものが多くあった。主な意見は以下のものであった。

- ・対比の構造を整理することで、内容が理解できるようになってうれしかった。
- ・対比の手法を用いることで、筆者の主張が効果的に伝えられるということが発見した。
- ・文章を読む時には、ただ漠然と読むのではなく、筆者の主張を考えながら読んでいくことの大切さに気付いた。
- ・最初は面倒くさいと思っていたが、整理していくうちに夢中になり、気付くと時間がたっていた。自分から理解しようとして、頭を使っているという考えをまとめることで読解力が付いたような気がする。

エ 「私の比較文化論」について

課題作文のテーマは、「食」に関するものが、22名と一番多かった。次いで「スポーツ」が7名であった。その次は「映画」、「音楽」、「学校」などが続いている。ほとんどの生徒は、対比を考えてそれを文章にまとめていくことで精いっぱいであり、自分の主張を効果的に伝えるために、対比を用いることができた生徒は、わずかであった。準備の時に用いたプリントに、自分の主張を書くような欄を作っておけばよかったというのが反省点である。

課題作文を書き終えての感想の中で、苦労したこととして挙げられていた事柄は、題材についての情報収集や、対比の軸の決定、文章の構成、分かりやすい文章表現などがあり、文章を書き上げる各行程において悪戦苦闘したことがうかがわれた。また、全体的な気付きとしては、以下のような意見があった。

- ・対比の文章を書く時には、幅広い知識と視野が重要だと分かった。
- ・対比の文章を書くことで物事を多面的に見て、考えることができた。
- ・「水の東西」の授業の時には、いまひとつはっきりしていなかった対比が、今回自分でテーマを決めて文章を書くことで、理解できたように思う。
- ・自分で文章を書いてみて、対比を用いることで効果的に自分の表現したいことが伝えられると感じた。

自分で対比を用いて文章を書くことにより、改めて対比の効用を理解し、実感した生徒が何人かいた。読解の授業の時には明確に意識していなかったことを、書くことによって、はっきりと認識したことが分かった。また、読む人に自分の考えを分かりやすく、効果的に伝えるためにどうしたらよいのか頭を悩ませたことは、今後文章を読んでいく時に、留意点として意識され、読解の指針になるだろう。「書く」ことによって「読む」ことが活性化され、読解の質が向上すると期待される結果となったことは、今回の実践の成果である。

(2) 実践の課題

今回、対比が分かっても最終的に筆者の主張が読み取れない生徒や、手段として用いている対比を目的のように読み取ってしまう生徒がいることが分かった。これを克服するためには、自分が獲得した幾つかの情報を総合し、全体化して物事を読み取る能力の育成と、何のためにこの文章が書かれているのかという、筆者の意図を常に意識した読みを重ねていくことが重要だと考える。今後、このような点をねらいに掲げた授業実践を考え、実行していきたい。

【脚注】

「スウェーデンの挑戦」は、『スウェーデンの挑戦』（岡沢憲芙著，1991年7月岩波書店刊）の本文（P 1，1行目～P 2，14行目まで），「丸亀日記」は，（藤原新也著，1988年6月朝日新聞社刊）の本文（P 201，1行目～P 204，3行目まで）を授業用のテキストとして利用した。